

【小倉勤】

■ 『大村智—2億人を病魔から守った化学者』
馬場錬成著 / 中央公論新社

理系・文系問わず学生の生き方のヒントとなる一人の学者の評伝。一読の価値あり。

薬学部

【池田啓一】

■ 『狂ったサル』
アルバート・セント＝ジェルジ著、国弘正雄訳 / サイマル出版

科学は人類の健康と幸せのために使われるべきものである。

【石川和宏】

■ 『がん消滅の罫 完全寛解の謎』
岩木一麻著 / 宝島社

ミステリーでがん治療を理解する面白さに感動するでしょう。

■ 『勿忘草の咲く町で 安曇野診療記』
夏川草介著 / KADOKAWA

超高齢化医療に挑む若き医療者が日々抱える数々の苦闘に心から感動する物語です。

■ 『蝸ノ記』
葉室麟著 / 祥伝社

人思いの温かい心を培うために。

■ 『糸』
林民夫著 / 幻冬舎文庫

がんで大切な人を失う場面も含まれていますが、人生における巡り会いと別れの神秘性にあらためて感動する内容であると思います。

【井上裕子】

■ 『スマホ脳』
アンデッシュ・ハンセン著、久山葉子訳 / 新潮社

暇さえあればスマホをいじっている人は是非お読み下さい。

【大島京子】

■ 『生物と無生物のあいだ』
福岡伸一著 / 講談社現代新書

生物をとっていない人でも大丈夫。

【岡田守弘】

■ 『臨床力に差がつく薬学トリビア』

宮川泰宏著 / じほう

「へえー」と口にしながら膝を叩いてしまう目から鱗が落ちる情報と各領域で陥りがちなピットフォールが明確に指摘されている。本書は会話形式で進められ、エッセーに近い軽快な参考書になっているので、読書が苦手な方にもおススメです。

■ 『薬の名前には意味がある』

阿部和穂著 / 薬事日報社

薬事日報で連載中の人気コラムが書籍化されたものである。薬名の由来を知ることによって化学構造や薬理作用などの特徴も関連付けて覚えられ、カタカナだらけの薬の名前が身近に感じられる1冊です。

【鍛治聡】

■ 『週末アジアでちょっと幸せ』

下川裕治著 / 朝日文庫

是非、訪れたいです。ここがいいかな・・・と、コロナ禍を克服しての旅先探しにも面白いです。個人的には、表紙をめくった1枚目の写真がたまらない。

■ 『日本を創った12人』

堺屋太一著 / PHP文庫

選ばれた一人は首相なのですが、吉田茂首相でも田中角栄首相でもない。何でとの思いも読み進めると納得でき、残りの方々も納得です。

【要衛】

■ 『化学者たちの感動の瞬間:興奮に満ちた51の発見物語』

有機合成化学協会編 / 化学同人

「創造の瞬間」有機合成化学の極意を学ぶ。

【亀井敬】

■ 『ひらく、ひらく「バイオの世界」:14歳からの生物工学入門』

日本生物工学会編 / 化学同人

■ 『高校生からのバイオ科学の最前線』

生化学若い研究者の会編 / 日本評論社

2つの本とも少し古いのですが、(4~5年程前)、初学者や文系の方で、生命科学のビジネスなどの応用的なものにも興味を持っている方にとっても読み易く、また、現代人としての教養を身につけるためにも、あまり堅苦しくならず手に取れそうです。

【川田幸雄】

■ 『世界史を大きく動かした植物』
稲垣栄洋著 / PHP研究所

人と植物のつながりを知ってほしい。

■ 『人の暮らしを変えた植物の化学戦略』
黒柳正典著 / 築地書館

薬の原点を知ってほしい。

【木藤聡一】

■ 『大学で何を学ぶか』
加藤諦三著 / ベストセラーズ

「世間からの評価にとらわれず、自分の人生は自分で切り開いていこう」という希望を与えてくれる本です。

■ 『正しいコピーのすすめ～模倣、創造、著作権と私たち～』
宮武久佳著 / 岩波ジュニア新書

「コピー＝悪」なのか？「許されるコピー」と「許されないコピー」の違いは何なのか？コピー時代におけるコピーの意義を深く考えるための一冊。

【倉島由紀子】

■ 『不死細胞ヒーラ ヘンリエッタ・ラックスの永遠なる人生』
レベッカ・スクルート著、中里京子訳 / 講談社

「科学の恩恵を受けている」私たちは、知っておくべき事実。改めて、「科学」の発展には「影」が付きまとっていることを認識させられます。(DNA二重らせんの発見、しかり)。21世紀となり、倫理観の醸成と共に新たな影は減ってきていると思いたい・・・。

【佐藤安訓】

■ 『チーズはどこへ消えた？』
スペンサー・ジョンソン著、門田美鈴訳 / 扶桑社

迷路に住む2人の小人と2匹のネズミの話で、30分程度で読める薄い本です。迷路＝人生、チーズ＝お金、名誉、安定など人生で自分が求めるもの。勉強、人間関係、就職等人生の様々なステージで役に立つ本です。

■ 『迷路の外には何がある？』
スペンサー・ジョンソン著、門田美鈴訳 / 扶桑社

「今後どう生きればよいか」と不安を感じたら読んでください。幸せになるためのお話です。世界で約3,000万部突破した『チーズはどこへ消えた？』の続編。

【佐藤友紀】

■ 『ノーベル賞の決闘』
ニコラス・ウェイド著、丸山工作訳 / 同時代ライブラリー

2人の科学者の壮絶な研究競争を描く物語。

【高橋達雄】

■ 『山本五十六』(「新潮日本文学51」収録)
阿川弘之著 / 新潮社

真珠湾攻撃を構想した人間の人物像とは。

【手塚康弘】

■ 『「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス』
戸田山和久著 / NHK出版

科学頭で生活も勉強も楽。

■ 『99.9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』
竹内薫著 / 光文社

あたまが柔らかくなる科学入門。

【畑友佳子】

■ 『ねこまんが さいごはおうちで(在宅医たんぼぼ先生物語)』
■ 『ねこまんが おうちに帰ろう(在宅医たんぼぼ先生物語2)』
永井康徳著、ミュージックワーク(ねこまき)漫画 / 主婦の友社

「生」と「死」を考えるときに。最期をどのように迎えるか。若いうちから様々な人のいろいろな考えに触れておくことがいいと思います。医療系学部学生に限らず、すべての学部学生に読んでもらいたい本です。

■ 『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー』
■ 『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー 2』
ブレイディみかこ著 / 新潮社

自分の頭で考え、自分の意見を持ち、行動できる、そんな大人になってほしいと思います。

【光本泰秀】

■ 『復活への底力』
出口治明著 / 講談社現代新書

「人生は楽しまなければ損です。強い思いがあれば人間はなかなか死なない」。脳卒中からの復帰を成し遂げたAPU学長の壮絶なりハビリの様子が描かれています。自身の底力を引き出すきっかけに！

【山崎真津美】

■ 『塩狩峠』
三浦綾子著 / 新潮文庫

実話がベース。人間愛のパワーを感じました。

【劉園英】

■ 『空中ブランコ』
奥田英朗著 / 文藝春秋

とても面白くて、不思議な話！癒しと元気をくれる一冊です。

経済経営学部

【板倉栄一郎】

- 『二十一世紀の若者論』
小谷敏著 / 世界思想社

日本の現代の若者(=大学生)が学術的にどのように位置付けられるのかを記した興味深い著書。

- 『本当に日本人は流されやすいのか』
施光恒著 / 角川新書

日本人は主体性が乏しいという言説に対して、日本文化論や戦後の歴史学等、様々な知見を駆使して検証を試みた意欲的な著書。

- 『「空気」を読んでも従わない』
鴻上尚史著 / 岩波ジュニア新書

「世間論」で得られた知見を拠り所に、「空気」や「雰囲気」、そして「同調圧力」に屈しない方法を筆者独自の切り口で記した挑戦的な著書。

【川端健司】

- 『ありがとうの神様』
小林正観著 / ダイヤモンド社

様々な悩みを解決するためのヒントが具体的に示されています。

【五味一成】

- 『人生心得帖』
松下幸之助著 / PHP文庫

簡単に読める書であるが、(悩み多き時期も含め)一人の社会人として自分の価値観を形成する上で、多くのヒントを授けてくれる。

- 『SDGs入門』
村上芽、渡辺珠子著 / 日経文庫

最近よく聞くSDGsとは何だろう。国連サミットで採択された全世界的なアジェンダが金沢に生きている自分に関係していくのだろうか……。

- 『ストーリーとしての競争戦略』
楠木健著 / 東洋経済新報社

講義で学ぶ理論の数々……時に不連続的な理解を総合的に捉えていくことの重要性を、興味を持たせながら教えてくれる良書。

- 『戦艦武蔵』『陸奥爆沈』『高熱隧道』『海の史劇』『巖嵐』『破船』『破獄』『仮釈放』
吉村昭著 / 新潮文庫他

- 『三陸海岸大津波』『関東大震災』『闇を裂く道』
吉村昭著 / 文春文庫他

題材は江戸時代から昭和期のものが多いが、綿密な取材、緻密な文章で構成された記録文学(ノンフィクション)の数々は読者の期待を裏切らない。感情を入れ込まずロマンに走らない冷徹な視点は、変わらない人間・社会の様々な現実を読者の脳裏に焼きつかせる。本物の記録文学に接してみよう。

- 『壬生義士伝』上・下巻
浅田次郎著 / 文春文庫

大学生にはあまり読まれないであろう歴史小説だが、最後は涙なくしては読めない心打つ小説。自分の軸を持って生きることの素晴らしさを考えさせられるロマン溢れる小説。

【高山直】

■ 『ブルシット・ジョブ:クソどうでもいい仕事の理論』
デイヴィッド・グレーバー著、酒井隆史訳 / 岩波書店

世の中だいたい無意味な仕事ばかり！なんとなく与えられた形式には従うけれども、本当に社会に役に立つかどうかはよく分からない。そんなあなたやわたしたちが巣立つための愛と毒のあるエールです。

■ 『脱成長』

セルジュ・ラトゥーシュ著、中野佳裕訳 / 白水社

ビッグマネー、カッコいいですよ！ん・・・？あればあるだけ良いという価値観は跳ね除けて、これだけあれば十分という生活の基準を議論する方が先決じゃないですか？

【田尻慎太郎】

■ 『リサーチの技法』
ウェイン・C・ブース他著、川又政治訳 / ソシム

研究を志す、すべての人が最初に読むべき古典です。

■ 『平成の経済』

小峰隆夫著 / 日本経済新聞出版社

バブル崩壊後の失われた二十年を体系的に振り返った、日本経済新聞「2019エコノミストが選ぶ経済図書」ベスト1の本です。

【佃貴弘】

■ 『こども六法』
山崎聡一郎著 / 弘文堂

著者は、刑法などの法律の条文を子ども向けに翻案した冊子を自費出版していました。この本は、いじめ問題に焦点を当てて書籍化したものです。同著者の本として、『こども六法の使い方』というエッセイ、『こども六法練習帳』があります。

■ 『100万回死んだねこ:覚え違いタイトル集』

福井県立図書館編著 / 講談社

思わず笑ってしまうような「うろ覚え」や「覚え違い」が載っています。特に171ページ以降の図書館の「レファレンスサービス」の部分を読めば、みなさんが図書館を使いこなせていないと感じると思います。図書館を使いこなせるようになるために、一読を薦めます。

【温井鋼哲】

■ 『孔子とドラッカー』
一条真也著 / 三五館

中国では孔子の論語再発見の真っ只中、日本ではドラッカーブーム。時代が求める二人の賢人を結びつけた本。

【藤本雄紀】

■ 『プログラムの絵本 プログラミングの基本がわかる9つの扉』
(株)アंक編 / 翔泳社

タイトルの通り、文章ではなく絵でわかりやすくプログラムの仕組みを説明した本です。今までパソコンに触れてこなかった人や、苦手意識がある人でも基礎から学べる一冊です。

■ 『文系AI人材になる』
野口竜司著 / 東洋経済新報社

AIの専門用語は必要最低限におさえつつ、AIをどのように活用すべきか、自分の仕事への応用を検討できる一冊です。本書に記載された活用事例を分析し、AIを使って自分の仕事をつくることのきっかけになります。

【松本和彦】

■ 『権利のための闘争』
イェーリング著 / 岩波文庫他

法・権利の目標は平和であり、そのための手段は闘争である。

【丸山洋三】

■ 『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』
リンダ・グラットン&アンドリュー・スコット著、池村千秋訳 / 東洋経済新報社

これまでの常識が通用しない100年ライフの時代に突入する中で、新しいシナリオをつくっていこう！ 若い世代にこそおすすめの本です。

■ 『その幸運は偶然ではないんです！』
J.D.クランボルト&A.S.レヴィン著、花田光世訳 / ダイヤモンド社

常に学び、挑戦し、好奇心を持ち続けることで豊かな人生が送れることを教えてくれた本です。

【南谷直利】

■ 『北の海』上・下巻
井上靖著 / 新潮文庫

「潮とどろく日本海」がイメージされる『北の海』を読破すると、井上の柔道稽古に明け暮れた学生生活の日々が蘇る。

【森田聡】

■ 『7割は課長にさえなれません』
城繁幸著 / PHP新書

終身雇用＝安定は真っ赤なウソということがわかります。企業の実態を知ってください。

■ 『ブラック企業：日本を食いつぶす妖怪』
今野晴貴著 / 文藝春秋

違法な労働条件で若者を働かせ、人格が崩壊するまで使いつぶすブラック企業の現状を知り、就活に役立ててください。

■ 『搾取される若者たち』
阿部真大著 / 集英社新書

若者はなぜ搾取されてしまうのか、この本を通じて何かを感じてください。

国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科

【伊藤梢】

- 『日本で学ぶ文化人類学』
宮岡真央子他編 / 昭和堂

日本をフィールドとした人類学に興味のある人へ。生まれ育った当たり前を見直すきっかけになります。

- 『ヒップホップ・モンゴリア: 韻がつむぐ人類学』
島村一平著 / 青土社

政治・経済・伝統・エスニックアイデンティティが絡み合うモンゴルのヒップホップシーン研究。

【川村拓也】

- 『わかりあえないことから—コミュニケーション能力とは何か』
平田オリザ著 / 講談社現代新書

副題の問いについて一度深く考えてみてもらいたいです。新書ですので読みやすいかと思います。

- 『英語とはどんな言語か: より深く英語を知るために』
安井稔著 / 開拓社

タイトルを読んで興味あるなと思った人は是非。私が大学で英語学を真面目に勉強しようと思ったきっかけの一冊でもあります。

【大東万里絵】

- 『世界で働く人になる!』
田嶋麻衣子著 / アルク

世界を舞台に活躍したい人必見。日本人としての強みを生かし、様々な国籍の人と仕事するためのヒントが見つかります。

【田中康友】

- 『ウルカヌスの群像: ブッシュ政権とイラク戦争』
ジェームズ・マン著、渡辺昭夫監訳 / 共同通信社

ジャーナリストのジェームズ・マンが、ブッシュ政権の閣僚たちに焦点をあて、なぜアメリカがイラク戦争に突き進んでいったのかを明らかにする。

【二ノ宮聡】

- 『世界に広がる日本の職人—アジアでうけるサービス』
青山玲二郎著 / ちくま新書

外国語を話せない日本の職人が、世界各地で受け入れられ活躍しています。彼らが海外に行くきっかけや多くの苦勞などをインタビューを通じて詳細に描いています。

- 『信仰の現代中国』
イアン・ジョンソン著、秋元由紀訳 / 白水社

急速な現代化によって中国の人々は様々な利便性を手に入れました。一方で、発展の中で失われていった伝統文化。しかし、いまなお伝統文化を精神的拠り所として現代社会に生きる中国人の姿が紹介されています。

【福山悠介】

■ 『誤解しないための日韓関係講義』

木村幹著 / PHP新書

文化面では韓国に関心があるけど、政治面ではなぜ関係が悪いのだろう…という想いを持つ学生も多いでしょう。本書はデータに基づいて、日韓関係の様々な疑問に回答してくれます。

■ 『二つのコリア』

ドン・オーバードファー&ロバート・カーリン著、菱木一美訳 / 共同通信社

アメリカのジャーナリストと米国の外交官が共著で描く、国際社会における朝鮮半島の現代史。北朝鮮がなぜ今の体制なのか、なぜ核を開発するのか。朝鮮半島に関する疑問が氷解する一冊です。

【村田和弘】

■ 『中国小説集』

中島敦著 / 講談社文庫

近代日本人の承認されない自我の悩みを、虎に変身した男が語り、沙悟浄が追及する小説集。

■ 『中国語はじめの一步』

木村英樹著 / 筑摩書房

読み手の言語センスが問われる一冊。

【吉田明代】

■ 『神話の力』

ジョーゼフ・キャンベル&ビル・モイヤーズ著、飛田茂雄訳 / 早川書房

「神話」というものを通して、人生や世界のことを深く考えるきっかけになる一冊。対談なので読みやすいです。

■ 『多田富雄のコスモロジー 科学と詩学の統合をめざして』

多田富雄著 / 藤原書店

生命と自己同一性の驚異にくらぐらわくわくし、科学と哲学と詩学と美学がぜんぶつながって、世界を見る目が一新される。

国際コミュニケーション学部心理社会学科

【小島弥生】

■ 『ソーシャルメディア論 改訂版』

藤代裕之著 / 青弓社

今の若い人たちが使っているSNSに関する、社会学や情報学の先生方がまとめている書籍で、アプリの話も含まれている。

■ 『なぜ人は他者が気になるのか？人間関係の心理』

永房典之著 / 金子書房

自信の持てない若い方に読んでほしい。

医療保健学部

【佐藤妃映】

- 『二十歳の原点 新装版』
 - 『二十歳の原点序章 新装版』
- 高野悦子著 / カンゼン

自分が根底から揺さぶられる本です。

- 『神谷美恵子日記』
- 神谷美恵子著 / 角川文庫

ハンセン病療養所で患者に献身した、精神科医である著者の日記です。自分自身を見つめ直すきっかけになると思います。

- 『二十歳の原点序章 新装版』
- 高野悦子著 / カンゼン

自分が根底から揺さぶられる本です。

- 『苦海浄土』
- 石牟礼道子著 / 講談社文庫

「水俣病」の受難史としてだけでなく「馥郁たる魂の香り」に触れて、様々なことを感じてほしいと思います。

【周尾卓也】

- 『生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉』
- 日野原重明著 / 幻冬舎

生活する勇気を与えてもらえる。

- 『生涯最高の失敗』
- 田中耕一著 / 朝日新聞社

勉強する勇気を与えてもらえる。

【關谷暁子】

- 『人間らしくヘンテコでいい』
- 鎌田實著 / 集英社

「ひとにうまれて、よかったな」そう思える一冊です。

- 『サイレント・ブレス』
- 南杏子著 / 幻冬舎

「人生の最期に寄り添う医療」について考えるきっかけに。

【高橋純子】

- 『禅ごよみ365日：毎日に感謝したくなる』
- 柘野俊明著 / 誠文堂新光社

日々感謝、色んな支えがあり、生かされている自分に気づく本です。

- 『仕事がかどる禅習慣』
- 柘野俊明著 / マガジンハウス

だらけた自分を見直したくなる本。自分に喝を入れることができます。

- 『あやうく一生懸命生きる場所だった』
- ハ・ワン著、岡崎暢子訳 / ダイヤモンド社

しんどいときに、がんばりすぎたときにこの本を読んで少し楽になってください。

【滝野豊】

■ 『救命センター カルテの向こう側』
浜辺祐一著 / 集英社

医療人を目指す学生は心に刺さるはず。医療制度が抱える問題も知ることができる。

■ 『大学生のためのメンタルヘルスガイド:悩む人、助けたい人、知りたい人へ』
松本俊彦著 / 大月書店

大学生になって新しくできた友達から対人関係、恋愛、性、薬物の相談を受けた時、きっと役立つ本です。

【油野友二】

■ 『人生は服、次第』
政近準子著 / 宝島社

ナンバーバルコミュニケーションとして理系・文系問わず学生・社会生活の一つのヒントがあります。一読の価値あり。

国際交流センター・留学生別科

【茂野瑠美】

■ 『ことばと思考』
今井むつみ著 / 岩波新書

認知言語学を学びはじめたい方におすすめの一冊です。

■ 『天国はまだ遠く』
瀬尾まいこ訳 / 新潮文庫

日々の生活に疲れた女の子が、田舎での生活を通して人生を見つめなおす物語です。頑張りすぎて疲れてしまったときに、読んでみてください。

【横田隆志】

■ 『ぼんやりの時間』
辰濃和男著 / 岩波新書

「忙しい」と感じたら、この本を読んで充実した「ぼんやりする時間」を過ごしてください。

【蘆冬麗】

■ 『愉楽』
閻連科著、谷川毅訳 / 河出書房新社

チャイニーズ・マジックリアリズムの代表作、Twitter文学賞受賞！その日本語訳から原作の文学方言とその裏にある真実を味わってみませんか。

【佐々木技好】

■ 『7つの習慣ティーンズ』
ショーン・コヴィー著、フランクリン・コヴィー・ジャパン編 / キングベアー出版

よりよい人生を歩く7つの習慣を学ぼう。

高等教育推進センター

【杉森公一】

■ 『量子力学で生命の謎を解く』
ジム・アル＝カーリー著、水谷淳訳 / SBクリエイティブ

コマドリの目は磁気を見ているー量子力学をめぐる生命の謎解き。深海誠も注目の一冊。

■ 『理系の子:高校生科学オリンピックの青春』
ジュディ・ダットン著、横山啓明訳 / 文藝春秋

全ての子どもたちが、科学の芽を息吹かせる可能性を持っている。11人の高校生たちの発見とセレンディピティ(奇跡)の物語。

図書館

- 『人生に悩んだら「日本史」に聞こう 幸せの種は歴史の中にある』
白駒妃登美著 / 祥伝社

歴史上の人物の感動的なエピソードに触れることができます。

- 『日本、遥かなり エルトゥールルの「奇跡」と邦人救出の「迷走」』
門田隆将著 / PHP研究所

イラン・イラク戦争でトルコが日本人を救ってくれた理由を知って欲しい。

- 『ノーサイドゲーム』
池井戸潤著 / ダイヤモンド社

企業スポーツの経営や組織論、スポーツを通じて顧客や地域に与える影響力と経営の難しさの両面を学べます。また、スポーツの魅力やチームで困難に立ち向かっていく姿に熱い気持ちを感じられる本です。

- 『シューカツ!』
石田衣良著 / 文藝春秋
- 『何者』
朝井リョウ著 / 新潮社

就活前に是非読んで欲しいと思います。

- 『永遠の0』
百田尚樹著 / 講談社

どの時代であろうと、家族や仲間を守るための愛や命の大切さを学べるので読んで欲しい。

- 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』
- 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『イノベーションと企業家精神』を読んだら』
岩崎夏海著 / ダイヤモンド社

ドラッカーの「マネジメント」について、野球を通じて分かり易く書いてある。経済経営学部の学生の皆さんに読んでほしい。

- 『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』
- 『1日1話、読めば心が熱くなる365人の生き方の教科書』
藤尾秀昭編 / 致知出版社

著名人の仕事や生き方に対する姿勢は、そのまま人生の教訓になります。

- 『それからはスープのことばかり考えて暮らした』
吉田篤弘著 / 暮しの手帖社

ゆったりと時間が流れる何気ない日常が、とてもいとおしく感じられます。